



岡野達也さん

(木工)

<http://onyva-to.petie.cc>

丁寧に作られた箱、  
色々な木の道具たち。  
そこには、  
「役に立ちたい」  
という2人の気持ちが  
溢れていました。

中学校のグラウンドが目の前にひろがる所に「Onyva! (オニヴァー! ※フランス語でレッツゴーの意味)」のショップ兼、工房があります。元々サラリーマンだった岡野さんは「手に職を付けたい」「好きなことを仕事にできたら」という思いから、以前から好きだった木工の仕事に進むことを決意。職業訓練校に通い、経験を積んだのち独立しました。

「自分で作って、お客さまの手に渡る。そのお客さまの顔を見たかった。」

さまざまなクラフトフェアに出展してお客様と直接の触れ合いを大切にしているのは、そんな気持ちを今ももち続けているからです。そして、初めて作った木のスプーンをきっかけに、木を身近に感じてもらえる様、生活で使われていく道具を中心に制作をしています。そんな作品には、色々な工夫が隠されていました。



少しずつ、少しずつ、  
力を込めて削られていく。

「少しでも切れ味が悪くなるとすぐに研ぐ。繰り返し刃を研ぐことが大切なんです。」

「少しづつ掘って作られるお皿の表面はとても滑らかです。そんなお皿は、長く使って貰いたいという気持ちから、表面は毛羽立ちしないようヤスリは使用せずに作られています。」

「ショップにあるテーブルは、座卓にもダイニングテーブルにも使ってもらえるように、足を短いものと長いものに取り替えられるようになっていきます。」

「どうやったら使いやすい?」「こうすると使って貰える?」使い手のことを第一に考え作られています。



裁縫箱は支えの木を入れて  
長く使えるよう工夫がされている!



「2人で考えて、役にたつものを作りたい。そんな気持ちを何よりも大切にしています。」

笑顔で色々な話しをしてくれる岡野さんの優しさ、そしてそこに奥さんの支えもプラスされて、素敵な作品がたくさん生まれているのだと思います。木の製品が増えるなかで、自分らしいものを作ることも忘れずに、糸を使った作品にも挑戦中。多くの人に手に取ってもらい、優しさを感じて貰いたいです!

